

2026年度豊岡市地域づくり懇談会

地域が変わると、暮らしが変わる

作野広和

島根大学教育学部教授
豊岡市地域コミュニティアドバイザー



必要があればお声がけ下さい！

全国の地域にアドバイスや協働活動（伴走型支援）を展開しております。

自治体単位，地区単位，集落単位の地域づくりのお手伝いをしております。

単発の講演会・研修会のご依頼も遠慮なくご相談下さい。

メール：hsakuno@edu.shimane-u.ac.jp

電話：0852-32-6107／090-2006-9162

作野広和 研究・活動

■ 県レベルの中山間地域振興

- ・奈良県（翠山大学設立準備） ★ 共同研究
- ・兵庫県（地域再生アドバイザー） ★★ 科研
- ・広島県（中山間地域集落のあり方）

■ 市町村レベルの中山間地域振興（1 共同研究）

- ・島根県益田市（20地区） 中山間地域振興計画の策定
- ・鳥取県南部町（7地区） 地域のあり方検討
- ・広島県神石高原町（4地区） ★ 地域のあり方検討

■ 地域コミュニティの再構築（4 共同研究）

- ・兵庫県豊岡市（29地区，地域コミュニティアドバイザー） ★
- ・兵庫県佐用町（13地区，地域づくりアドバイザー）「さようぼ」★
- ・広島県広島市（140地区，広島型地域運営組織ひろしまLMO）
- ・島根県出雲市佐田町（2地区）……「さだらぼ」
- ・島根県飯南町（5地区，地域づくりアドバイザー）「飯南らぼ」★
- ・島根県邑南町（12地区，顧問）……「邑南らぼ」 ★

■ 持続可能な地域づくりの推進

- ・島根県大田市（馬路地区）
- ・島根県江津市…「松平らぼ」
- ・島根県奥出雲町（たたら文化的景観）…「奥出雲らぼ」

■ 高校魅力化（4校）

- ・島根県立矢上高校（地域との協働事業）
- ・島根県立飯南高校（「生命地域学」の継続）
- ・鳥取県立米子西高校（みらいチャレンジの継続）
- ・鳥取県立日野高校（魅力向上）

■ 高校持続・公設塾

- ・中国地方・島根県における高校の持続・公設塾に関する研究

■ 公営塾・教育再生・人づくり（3地域）

- ・鳥取県日野郡まなびの推進局（日野町・日南町・江府町）
- ・保・小・中一貫教育プログラム「日南学」の推進（日南町）
- ・「人づくり」と「地域づくり」の一体的取り組み（益田市）

■ 学校配置・あり方・再編（5市町）

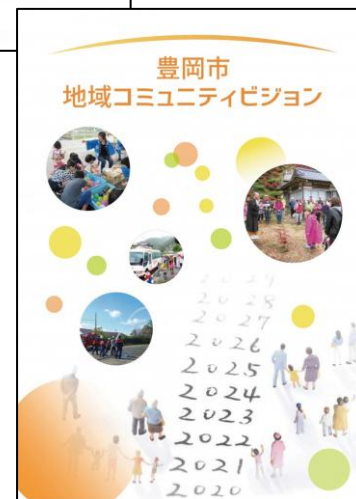
- ・島根県安来市（5中学校・17小学校）答申済
- ・島根県飯南町（2中学校・4小学校）答申済
- ・島根県川本町（1中学校・1小学校）答申済
- ・島根県邑南町（3中学校・8小学校）
- ・広島県庄原市高野町（1中学校・1小学校）

■ 学校経営（2校園）

- ・教育学部附属学校部長（附属幼稚園，附属義務教育学校）

豊岡市における取り組み

- 1年目 2011（平成23）年度 但東町資母・合橋・高橋地区への関わり（一部過疎）
- 2年目 2012（平成24）年度 但東町資母・合橋・高橋地区への関わり（一部過疎）
- 3年目 2013（平成25）年度 新しい地域コミュニティのあり方検討委員会設置
- 4年目 2014（平成26）年度 「新しい地域コミュニティのあり方方針」策定（モデル地区1年目）
- 5年目 2015（平成27）年度 地域コミュニティ政策推進会議設置（モデル地区2年目）
- 6年目 2016（平成28）年度 地域コミュニティ政策推進会議継続（モデル地区3年目）
- 7年目 2017（平成29）年度 地域コミュニティ組織設立（全29地区）
- 8年目 2018（平成30）年度 地域コミュニティビジョン策定委員会設置
- 9年目 2019（令和1）年度 「地域コミュニティビジョン」策定
- 10年目 2020（令和2）年度 地域づくり戦略会議設置・中間支援組織設立・地域づくり職員ネットワーク設置
- 11年目 2021（令和3）年度 「支えあう地域のしくみを考えるアンケート調査」の実施
- 12年目 2022（令和4）年度 「支えあう地域のしくみを考えるアンケート調査」報告会の実施
- 13年目 2023（令和5）年度 「地域コミュニティチェックシート」試行
- 14年目 2024（令和6）年度 全地区訪問（2巡目）
- 15年目 2025（令和7）年度 共同研究 行政区に対する調査
- 16年目 2026（令和8）年度



2025年度 豊岡市・島根大学共同研究

<ヒアリング担当者>

前田拓望

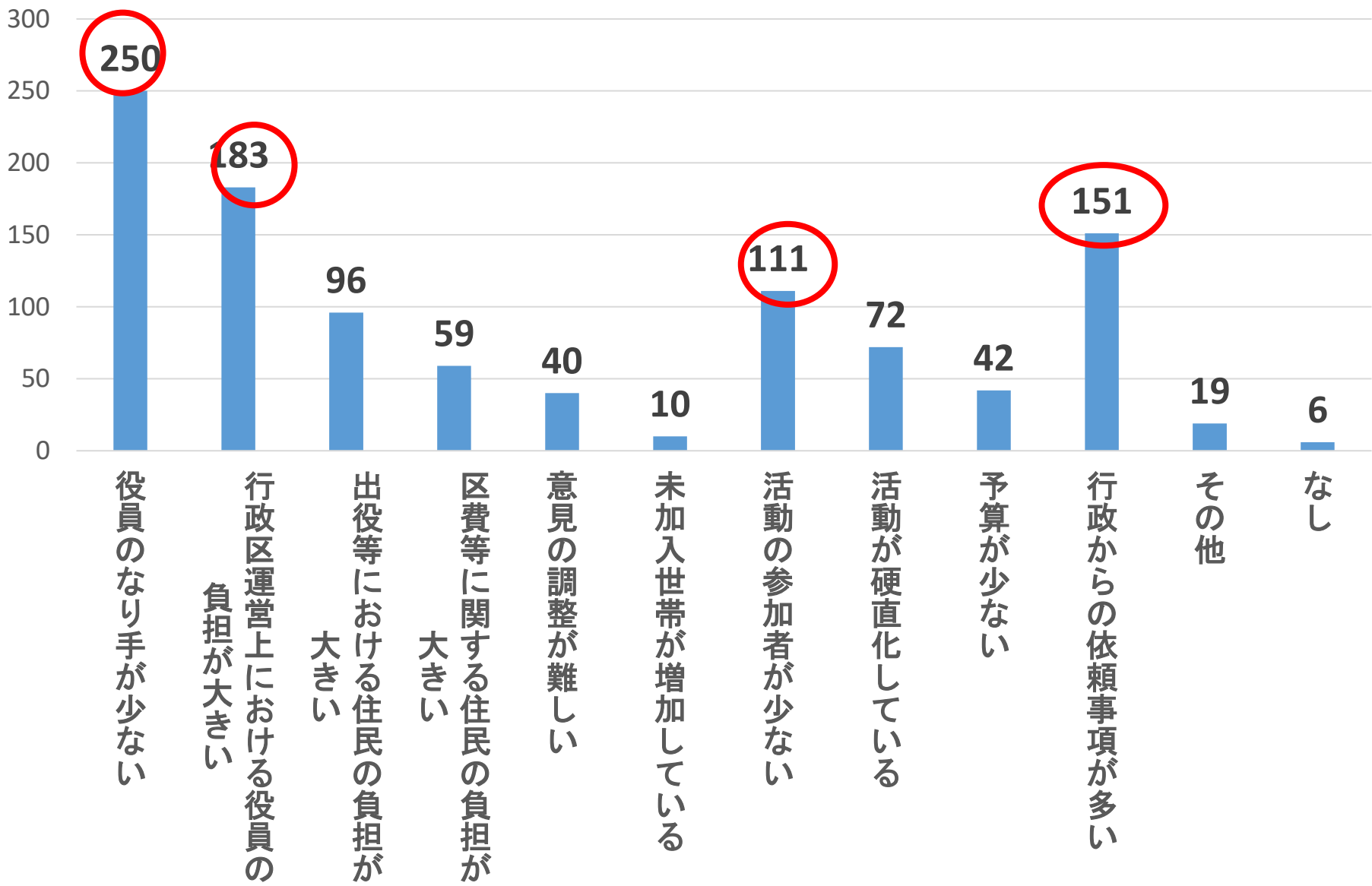
(当時：島根大学教育学部4年)

調査対象	期間	調査内容
全行政区調査	6月	・「行政区調査」の調査票を、各行政区の区長・町内会長に送付 (359行政区) ・調査票を通じた区長会の運営状況、各区が有する課題、地域コミュニティ組織との関係 等の実態把握
事例地区調査	8～9月	・3地区 (五荘地区, 小坂地区, 資母地区) の全区長に対するヒアリング調査による実態把握
事例集落調査	9月	・「世帯訪問ヒアリングシート」を用いた各世帯代表者に対するヒアリング調査 (資母地区の3行政区) ・それぞれヒアリングの際に受け取った資料をもとにした実態把握



Ⅱ 行政区の課題

行政区の課題について（複数回答）

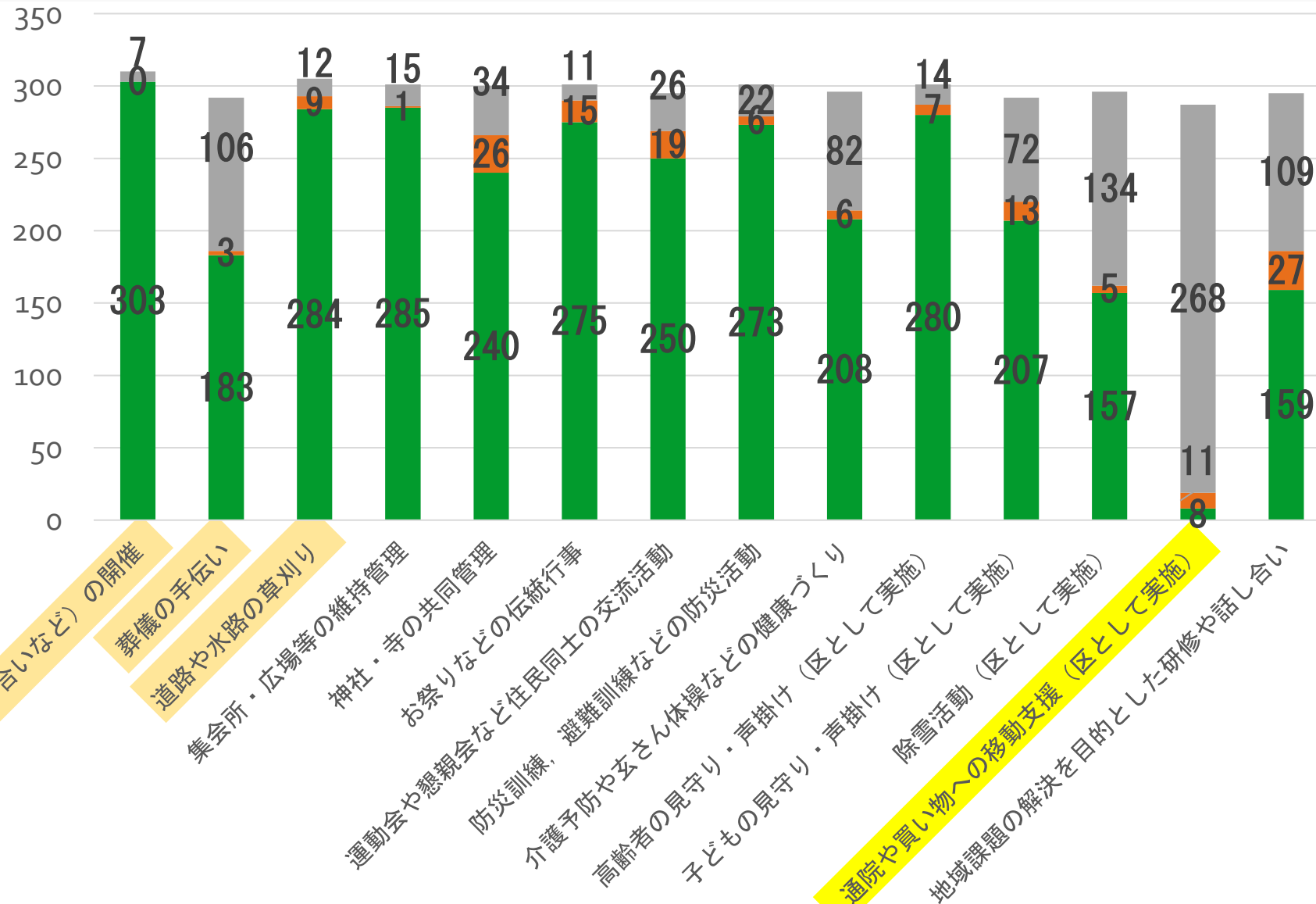


○行政からの依頼事項が多い等、役員の負担が大きいことになり手が少ない要因につながっているように捉えられる。

○活動の硬直化、マンネリ化が参加者の減少につながっている可能性あり。

○少数ながら、行政区における課題がないと回答する行政区もあり。

行政区の活動内容について



■ 活動している ■ 隣接する行政区等と共同で活動している ■ 活動していない

○基本的な集落機能を有している。

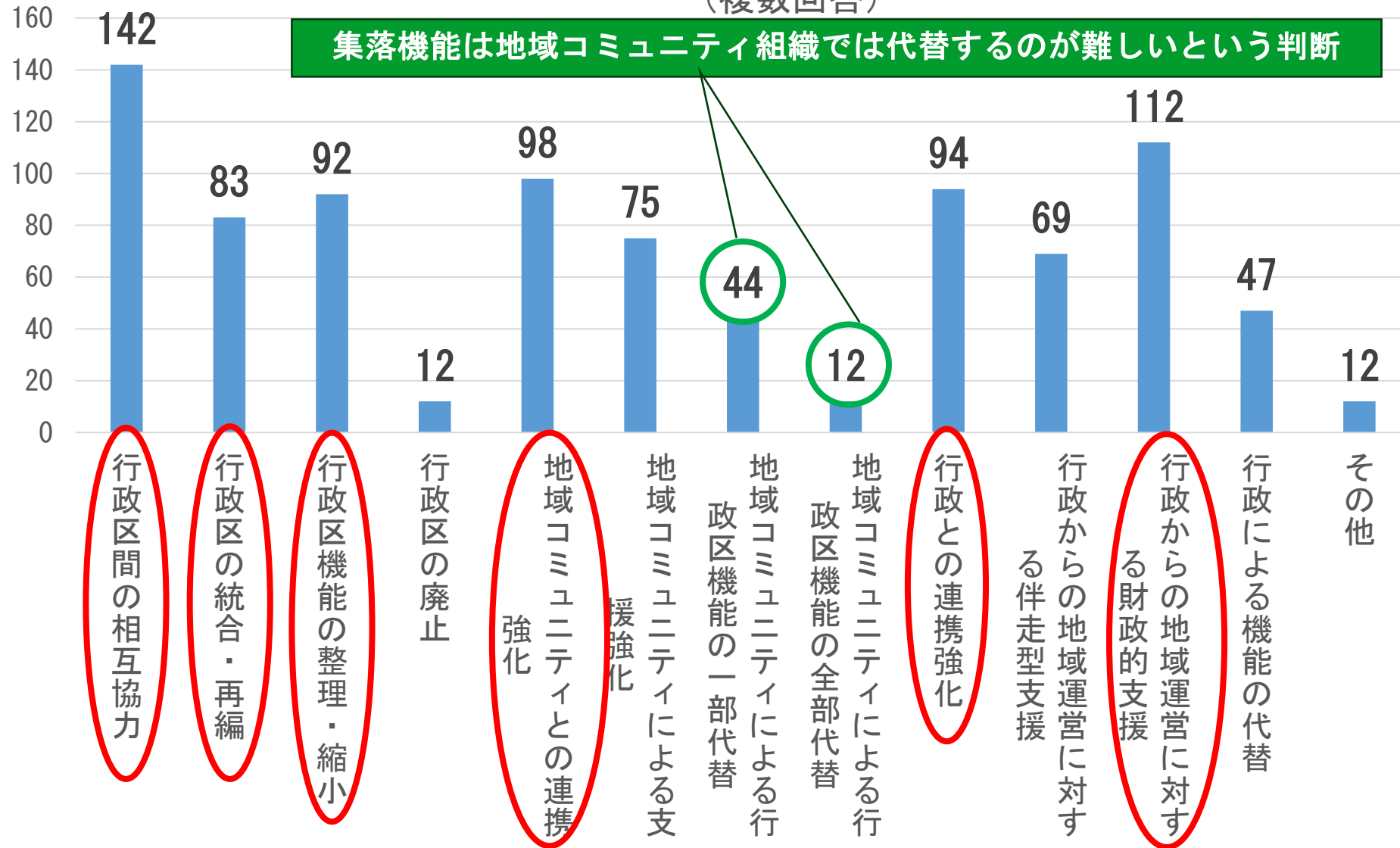
- ・ 生産補完機能
- ・ 資源管理機能
- ・ 生活扶助機能

○ほとんどの行政区で常会や寄り合いが定期的に開催されている。

○「通院や買い物への移動支援」を実施している行政区は少ない。

行政区の機能・活動を継続していく上で必要と思われるものについて (複数回答)

・行政区の機能・活動を継続していく上で必要と思われるものについて
(複数回答)



○「行政区間の相互協力」が最も多い。「行政区機能の整理・縮小」や「行政区の統合・再編」についても注目できる。

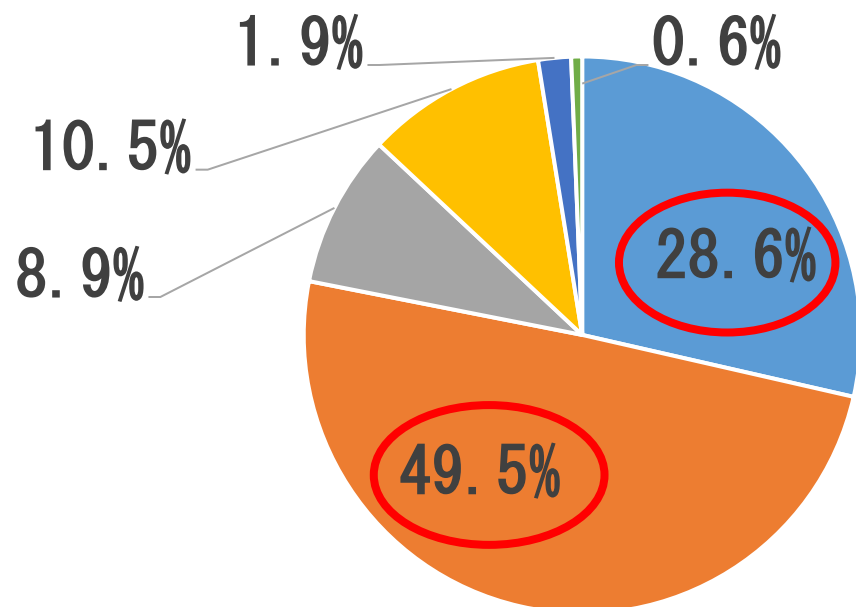
⇒**水平連携による
課題解決**

○地域コミュニティ組織や行政との連携・支援強化も多く、単一行政区だけでは住民自治・課題解決は難しく、協力が必要であると感じる行政区が多い。

⇒**垂直連携による
課題解決**

地域コミュニティ組織について

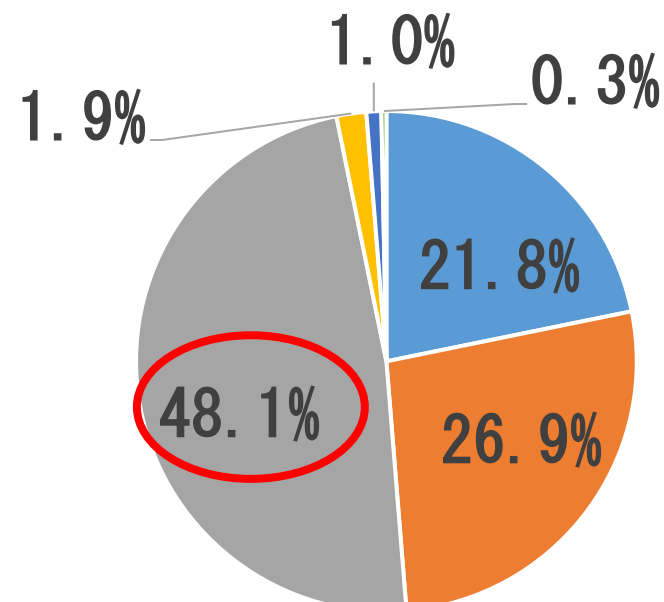
・地域コミュニティ組織について



- 地域コミュニティはととても重要な存在である
- 地域コミュニティの存在意義はある
- 地域コミュニティのことがよくわからない
- 地域コミュニティの存在意義が見いだせない
- 地域コミュニティはない方がよい
- その他

行政区と地域コミュニティ組織との関係について

・行政区と地域コミュニティ組織との関係



- 地域コミュニティと強く関わっている
- 地域コミュニティとある程度関わっている
- 地域コミュニティから依頼に応じて関わっている
- 世帯・個人単位で関わっている
- 地域コミュニティ組織とは全く関わっていない
- その他

○地域コミュニティ組織の存在をある程度認めつつも、より地縁的な行政区の方を重要視していると考えられる。

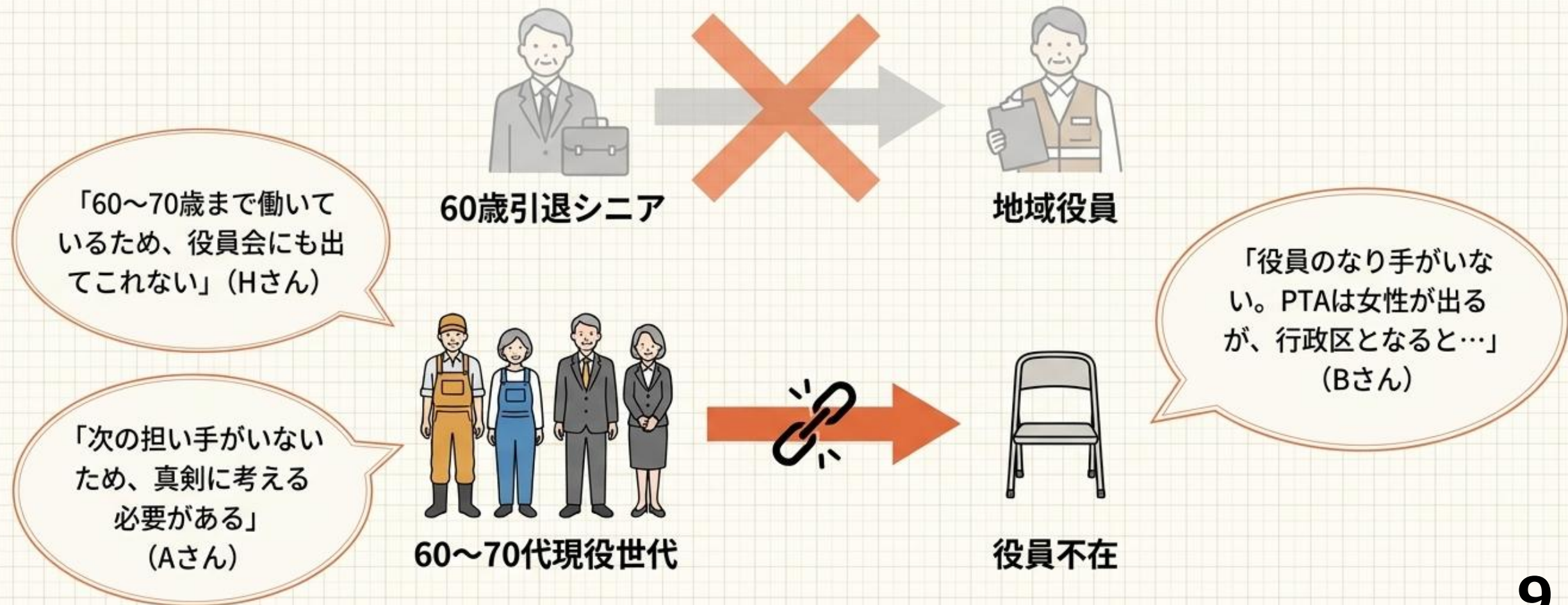
○行政区から地域コミュニティ組織への関わりが少ない

⇒ 行政区は地域コミュニティ組織との関わりについて受動的に対応

Ⅲ 見えてきた地域課題の発生要因

課題クラスター①：枯渇する「担い手」と崩壊する旧モデル

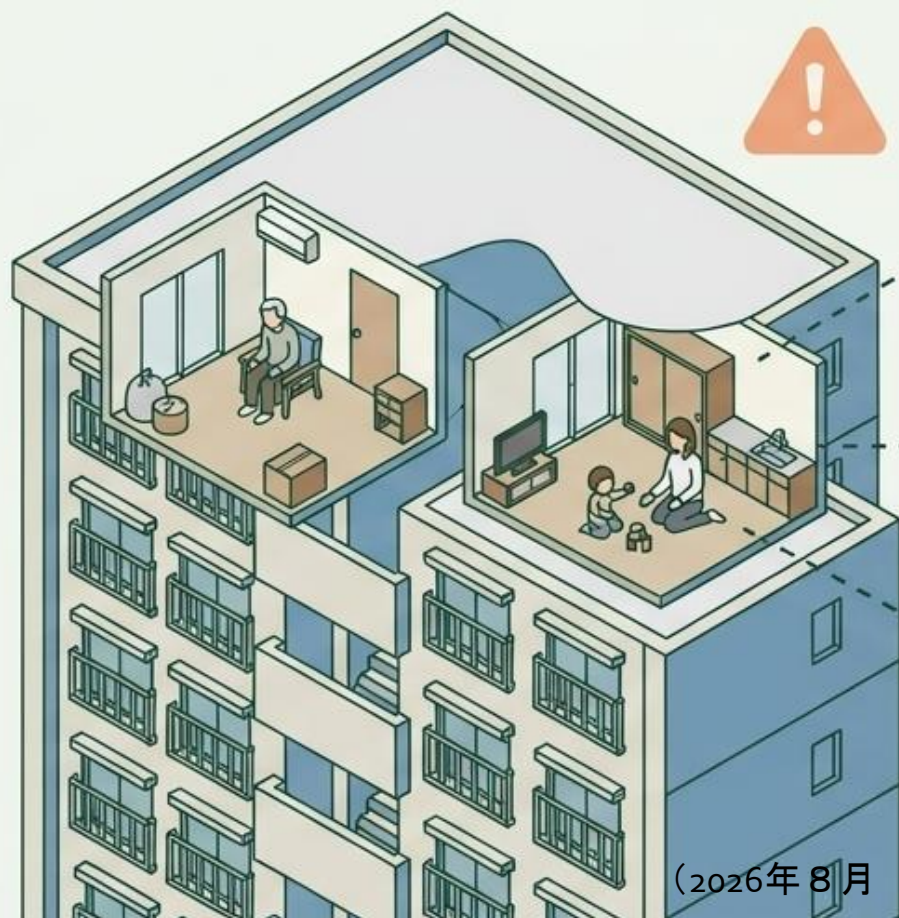
「引退したシニアが地域を担う」という前提はすでに崩壊している。



(2026年8月「日高地区地域づくり懇談会」意見交換の結果をNotebookMLにより分析)

課題クラスター②：「自助」の限界と見えない弱者

多様化する住民構成に対し、「自分たちで何とかする」ことを前提としたコミュニティ維持は限界を迎えている。



「自分の区は県営住宅。他のアパートに住めない
高齢独居やシングルマザーなど女性が多い。」
(Aさん)

「避難訓練をやっても、自分たちだけではできな
い。どうしても支援が必要な人が多いが『自助』に
なっている。」(Aさん)

「不安感はあるが、他人に声をかけても人任せの
対応が多い。」(Aさん)

課題クラスター ③：伝統という名の「同調圧力」のジレンマ

「昔からやっているから」という理由だけで続ける慣例が、かえって地域の分断を生んでいる。



（2026年8月「日高地区地域づくり懇談会」意見交換の結果をNotebookMLにより分析）

【比較マトリクス】なぜ今、システムが軋んでいるのか？

システム・エラーの根本原因		
	昭和・平成の前提	令和の現実
働き方	定年退職・専業主婦	60-70代まで現役就労・共働き
世代と世帯	多世代同居・均質化	高齢独居・シングル・新住民
地域の繋がり	濃密な地縁・宗教的紐帯	個人の多様な価値観の尊重

過去の前提で作られたOS（地域の仕組み）のまま、現代のアプリ（住民）を動かそうとしていることが最大の原因です。

（2026年8月「日高地区地域づくり懇談会」意見交換の結果をNotebookMLにより分析）

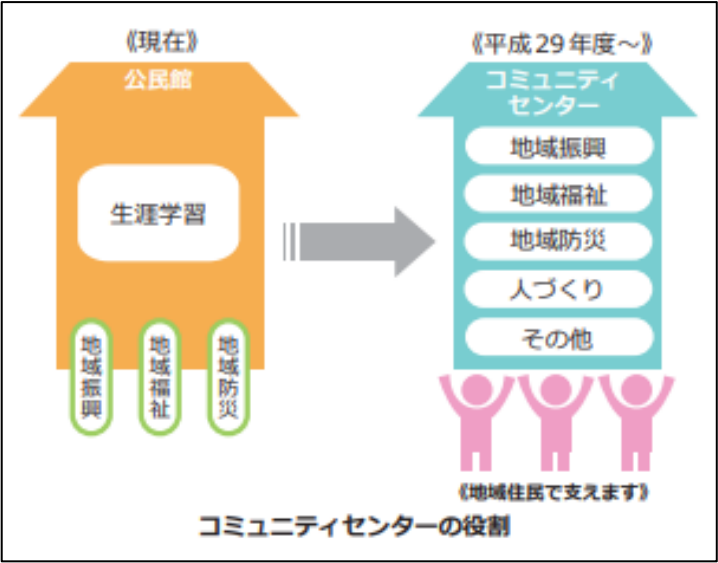
IV 豊岡市における地域づくり改革

第1段 地域コミュニティ組織（地域運営組織）による行政区の補完

「新しい地域コミュニティのあり方方針」



地域コミュニティ組織・コミュニティセンター設立（2017年）



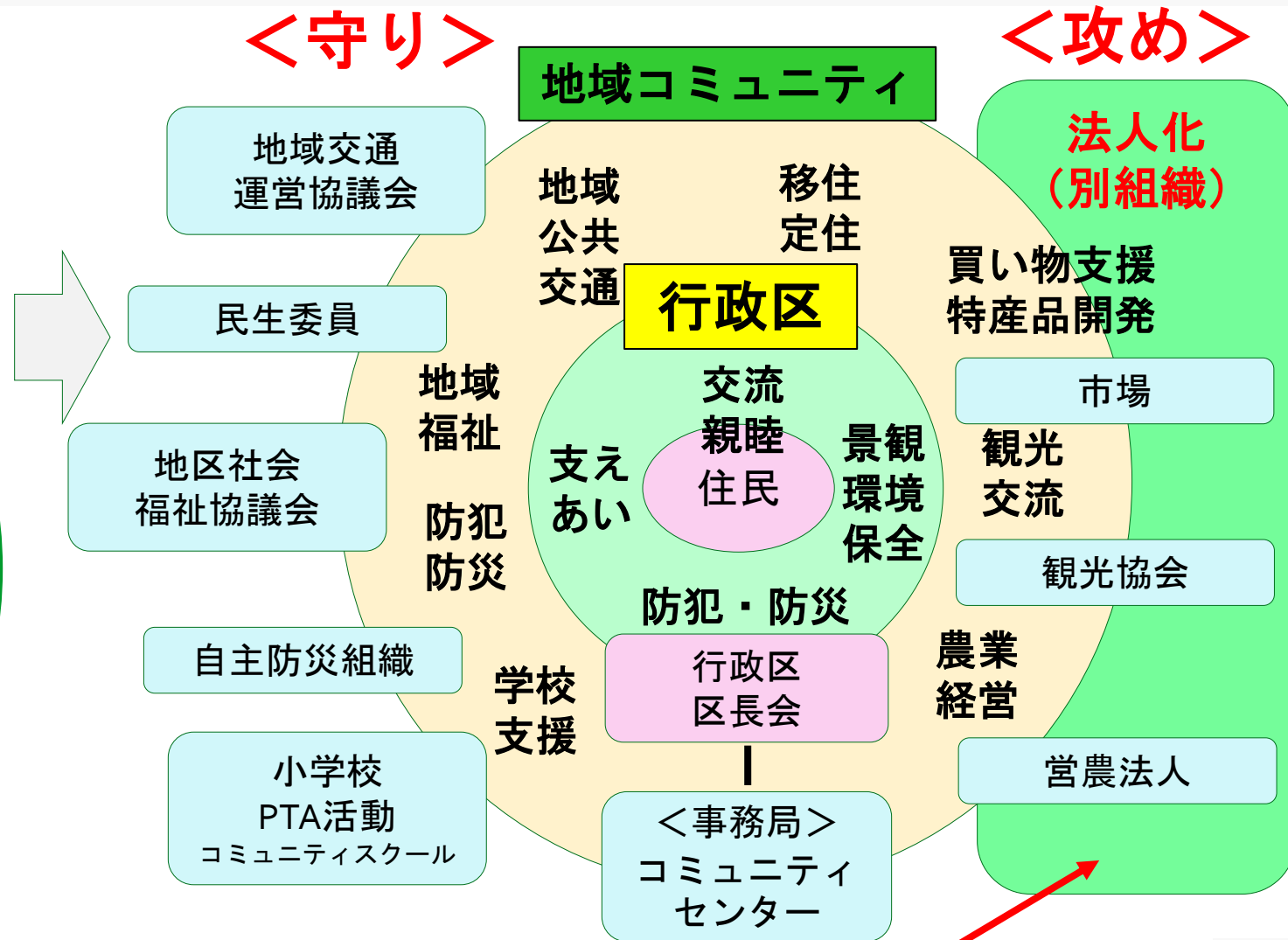
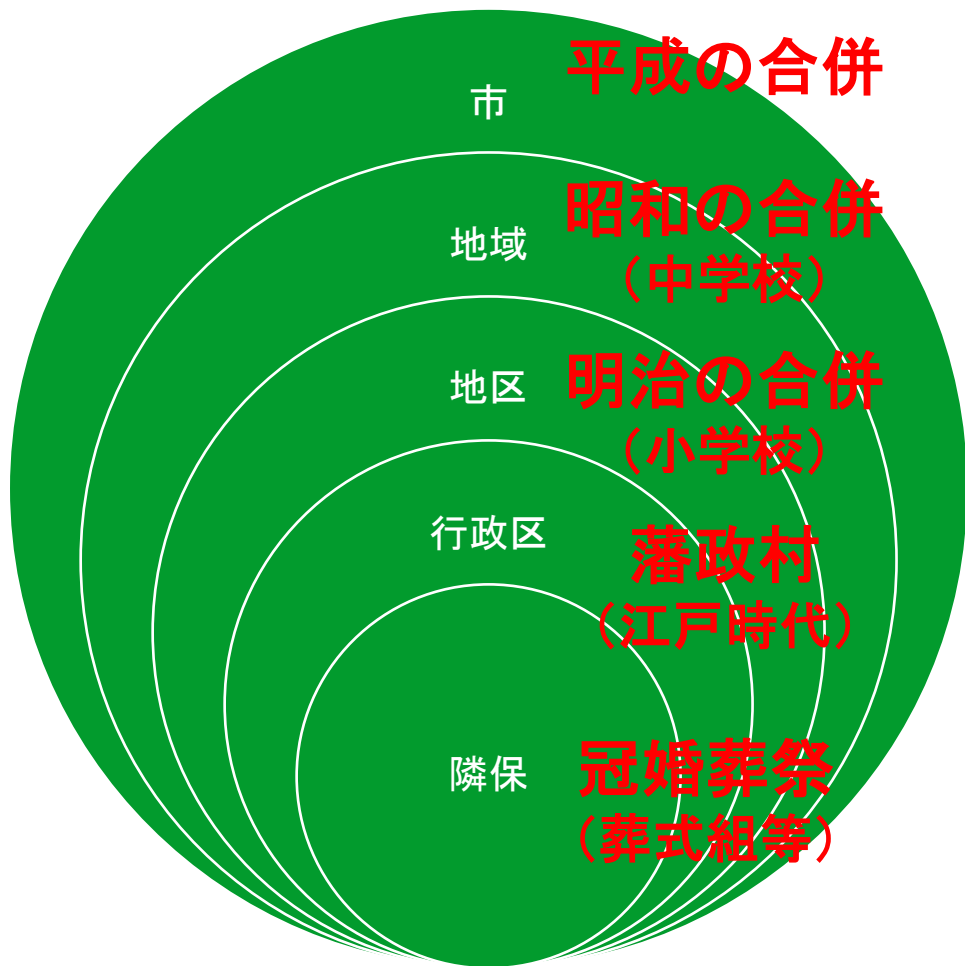
「地域コミュニティビジョン」（2020年）



行政区を補完する地域コミュニティ（地域運営組織）

ネットワーク型自治組織

地縁型自治組織



住民合意の外出し「実行組織」（法人）を設置することもできる

第2段 行政区のあり方改革×地域コミュニティ組織の再定義

(1)地域政策改革：市役所・振興局

- 行政からの依頼実行の徹底的な見直し
- 住民に近い地域振興局の機能強化
- 中間支援組織による伴走型支援の強化

(2)地域コミュニティ改革：地域コミュニティ組織

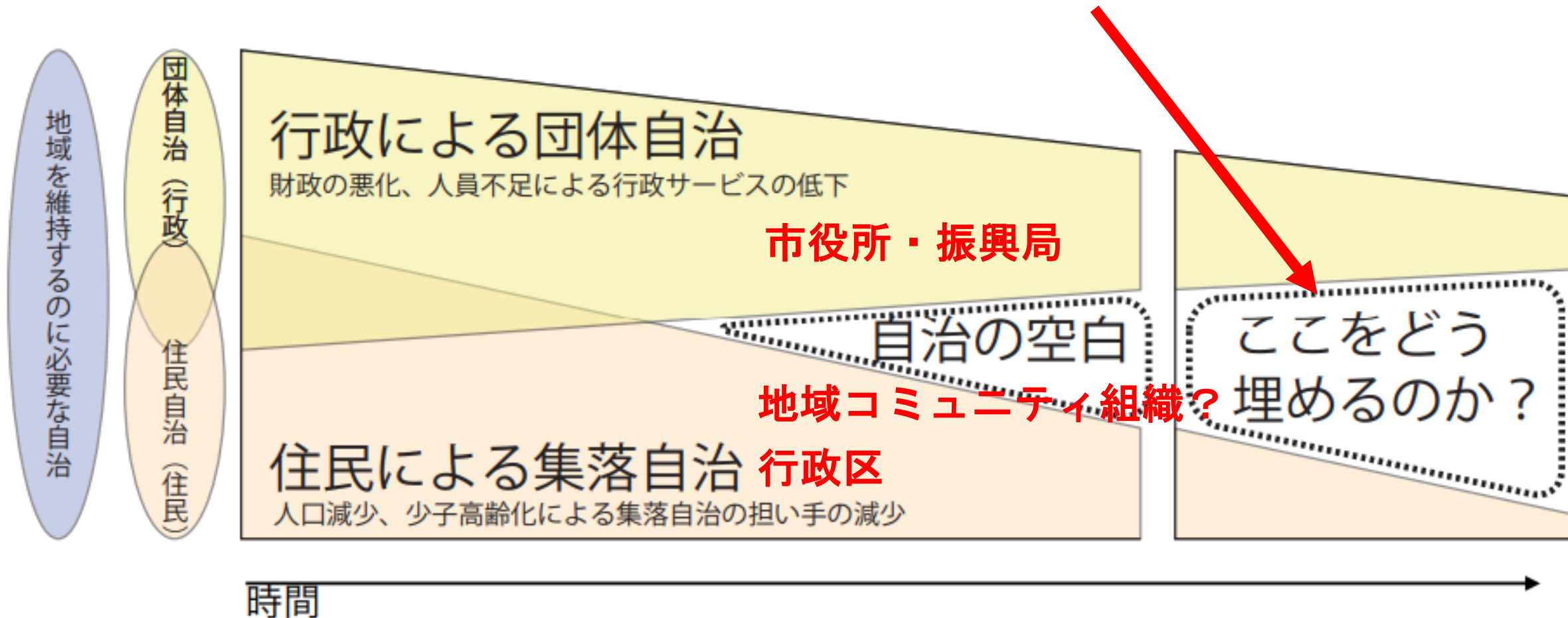
- 地域コミュニティ組織のミッションの再定義
- 地域コミュニティ組織における主体の変革
- 移住定住・空き家対策・子育て支援・伝統行事等，固有の役割継続

(3)行政区改革：行政区

- 行政区・隣保の機能・ミッションの再定義
- 行政区・隣保における慣例（役・行事）の見直し
- 行政区・隣保の再編 など

地域コミュニティに求められる本来の役割→新たな主体の参画が必要

本来は地域コミュニティの役割→しかし「同じメンバー」がやっているからたいへん



豊岡市 出石地域：地域づくりの現場から届いた「切実な声」

2026年度 豊岡市地域づくり懇談会における、担い手不足、高齢化、経済的負担、インフラ維持など、集落が直面している「持続可能性」に関する生の声

限界に近い「担い手」と「負担」の現状

深刻な役員のなり手不足と、特定の世帯への過重負担

1世帯で複数の役職を兼務せざるを得ず、活動への負担感が限界に達しています。



75歳以上が1世帯に1人以上。 高齢化による機能低下

1+人

75歳以上



高齢化と世帯数減少により、伝統行事やラジオ体操など日常活動の維持が困難です。



年間数十万円に及ぶ「区費」の経済的負担

住民が負担する区費が高額であり、生活に大きな影響を与えています。



崩れゆく「生活基盤」と「地域組織」



移動手段の喪失と「買い物難民」の発生

移動販売の停止など、特に高齢者にとって「足の問題」が深刻な課題となっています。



地理的・心理的障壁による組織再編の停滞

隣接集落との距離や帰属意識の差から、行政区の合併や隣保の再編が進みません。

農地・山林の維持管理が困難なフェーズへ

高齢による耕作放棄の増加や、山林管理費の負担が地域の持続性を脅かしています。



V 鳥取県南部町における「地域のあり方」改革

鳥取県南部町：地域づくり懇談会



地域づくり懇談会2026

日時：令和8年7月1日（水）
19：00から20：30

申し込み不要

会場：おおくに田園スクエア 南部町原868番地4

この懇談会は、地域のすべての方が対象です。
人口減少や高齢化が進む中で、南部町の地域づくりは、
集落に寄り添う姿が求められています。
これからの地域の未来について考えてみませんか。

1 趣旨説明

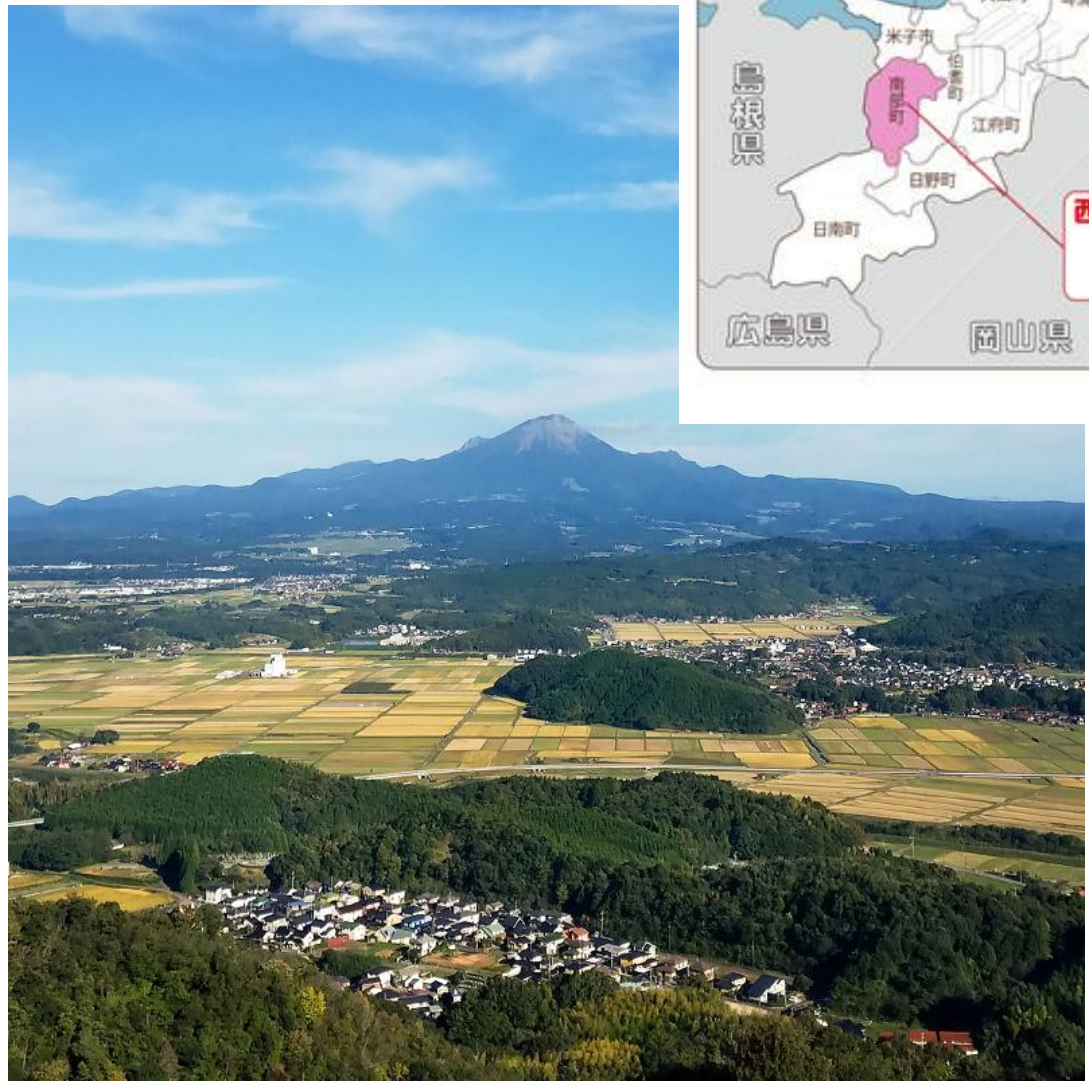
2 話題提供「南部町における集落の現状と課題」
南部町地域づくりアドバイザー
島根大学 教育学部 教授 作野広和 氏

3 意見交換

1968年島根県松江市生まれ。島根大学准教授を経て、2014年から現職。2024年度より島根大学教育学部付属学校部長。総務省過疎問題懇談会構成員、農林水産省鳥獣害対策アドバイザー、島根県中山間地域研究センター客員研修員などを歴任。



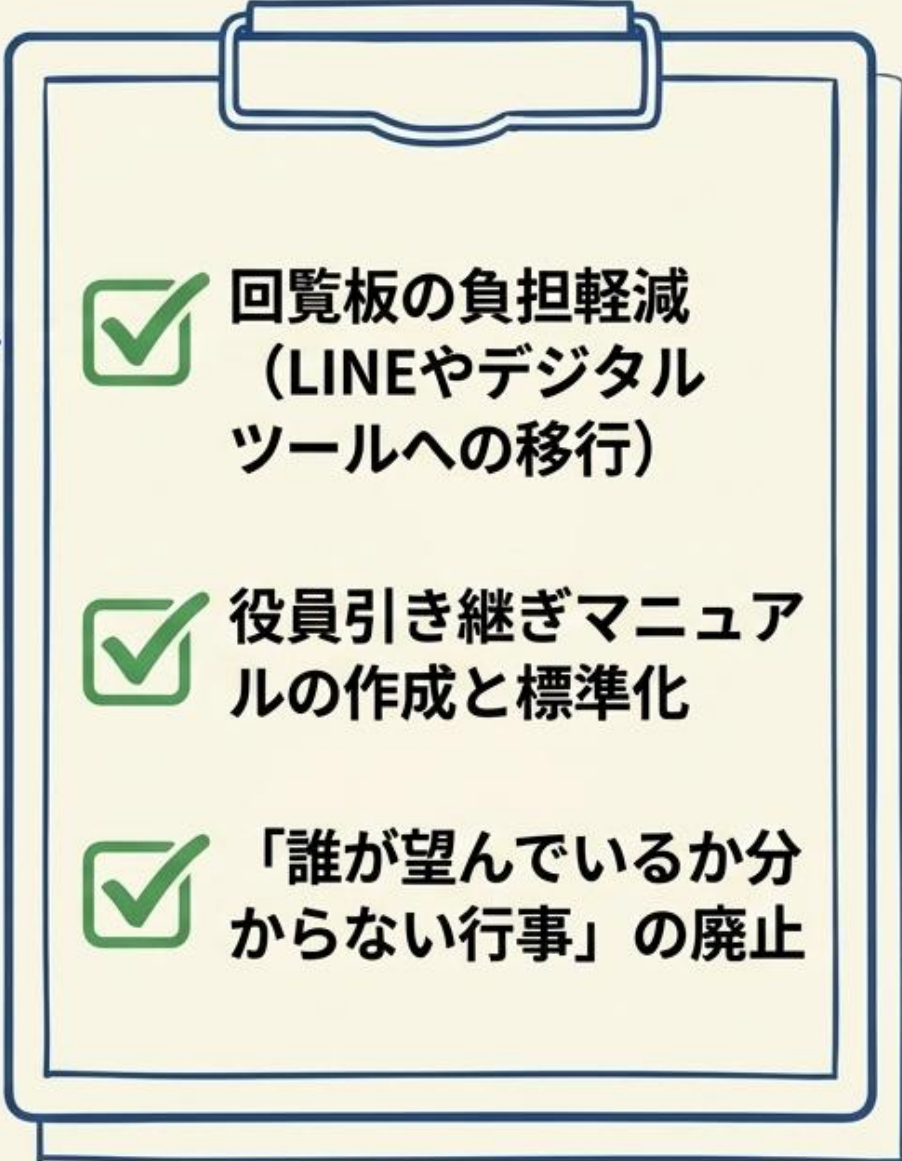
問い合わせ先：南部町未来を創る課 電話 46-0870（キナルなんぷ内）



pixta.jp - 107280361

STEP 1：負担を削る（まずは「例年通り」を疑う）

「私たちが目指すのは……
ヒマじゃない人のための町
内会。まずは『例年ど』を
疑うこと。外からの業務依頼は
ふるいにかけて、必要なもの
だけを残すこと。」

- 
- ✓ 回覧板の負担軽減
（LINEやデジタル
ツールへの移行）
 - ✓ 役員引き継ぎマニユア
ルの作成と標準化
 - ✓ 「誰が望んでいるか分
からない行事」の廃止

STEP 2：話し合いのフォーマットを変える

古い会議の脱却

~~✕ アルコール~~ ~~✕ 携帯電話~~ ~~✕ 一部の人の長い話~~

「中高年男性が得意なやり方」から、
「誰もが参加しやすい標準化」へ。

新しい対話のツール



- ✓ ホワイトボードの徹底活用（意見を可視化する）
- ✓ 50歳以下のミライカイギ（若者主体の意思決定）
- ✓ 否定のないポジティブな空気づくり

「むらの減築」

【支援者向け】 京都府「むらの減築」

「むらの減築」ワークショップ運営マニュアル

令和5年3月 Ver.3.0

京都府 農林水産部 農村振興課



軽減・見直しの考え方（例）

今のうちから
「見直したいこと」
「話し合い、変えていくこと」

可否は今後の役場や区の役員会での協議や合意形成が必要ですが…

例①「役」の共同化

- 他の集落で共同で役を担う（2集落で1人など）
- その際、負担増加の可能性があるので留意（回る範囲が増える等）し、共同にした方が効率的かどうかを踏まえる。

例②「役」の活動内容そのものの見直し

- 共同作業の見直しと同じように、活動を組み合わせる、方法を変えるなどで負担を減らす（会議の回数を減らす、資料配布を減らす等）

例③「役」がなくても目的達成できる方法に替える

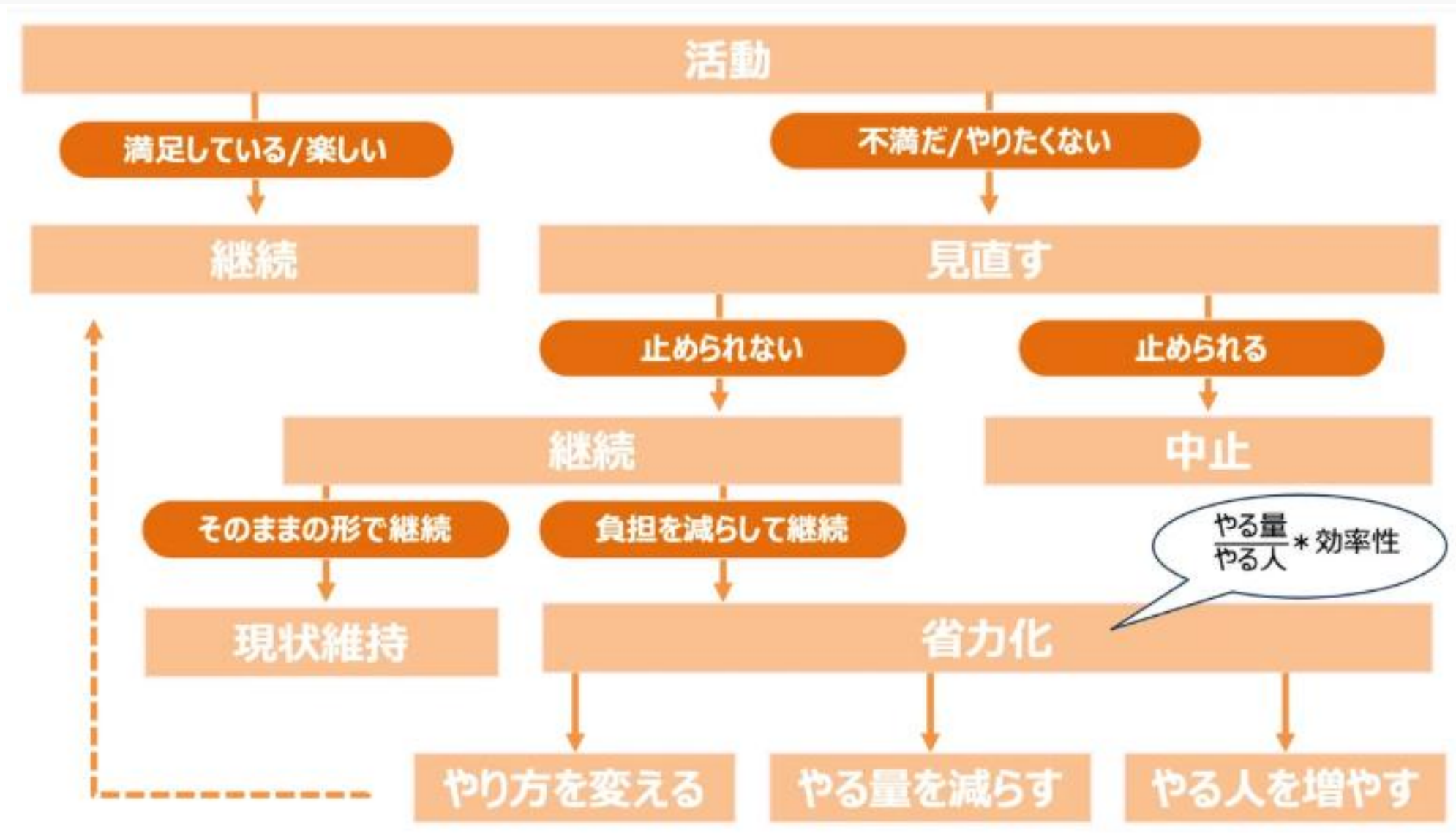
- 特定の「役」の人でなくてもできることを、住民が少しずつ分担する（福祉委員の見守り：毎朝各戸玄関に目印に掲出→ご近所が声かけ）

例④ 区に必要な「役」はやめる

- すでにほとんど活動がない役は、他の役にまとめる
- 行政からの依頼の場合、行政で統合・見直しを行う

19

「むらの減築」 地域の現状をセルフチェック



鳥取県南部町坂根区の地域運営見直し

1 経緯

副区長の任期が令和8年3月31日に満了なることに際し、次期、副区長の人選が難航し、初寄合（令和8年3月開催）で、区長により現状報告、検討会の立ち上げについて提案あり（⇒了承）

※区長、副区長の任期：2年

区長と副区長の任期を1年ずらし、
集落運営を行っている

副区長は、前年度に多面的機能支払団体
（坂根活動組織）の会長

坂根活動組織の会長は、
坂根農事実行組合の組合長になっていた。



2 見直し案

○意図：現在の仕事の棚卸 ⇒ 再編成
区長の仕事の分散化

○きっかけ：役目に入っていない人の存在
（見えない不公平感）

○考察

・自分たち（の課題）ことは、自分たちで決めている
→住民自治の原点

〈役目型〉

区長

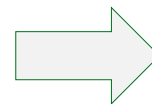


副区長



・各種委員（行政関係、地域関係）

・各種組織（農業、神社）



〈グループ運営型〉

区長



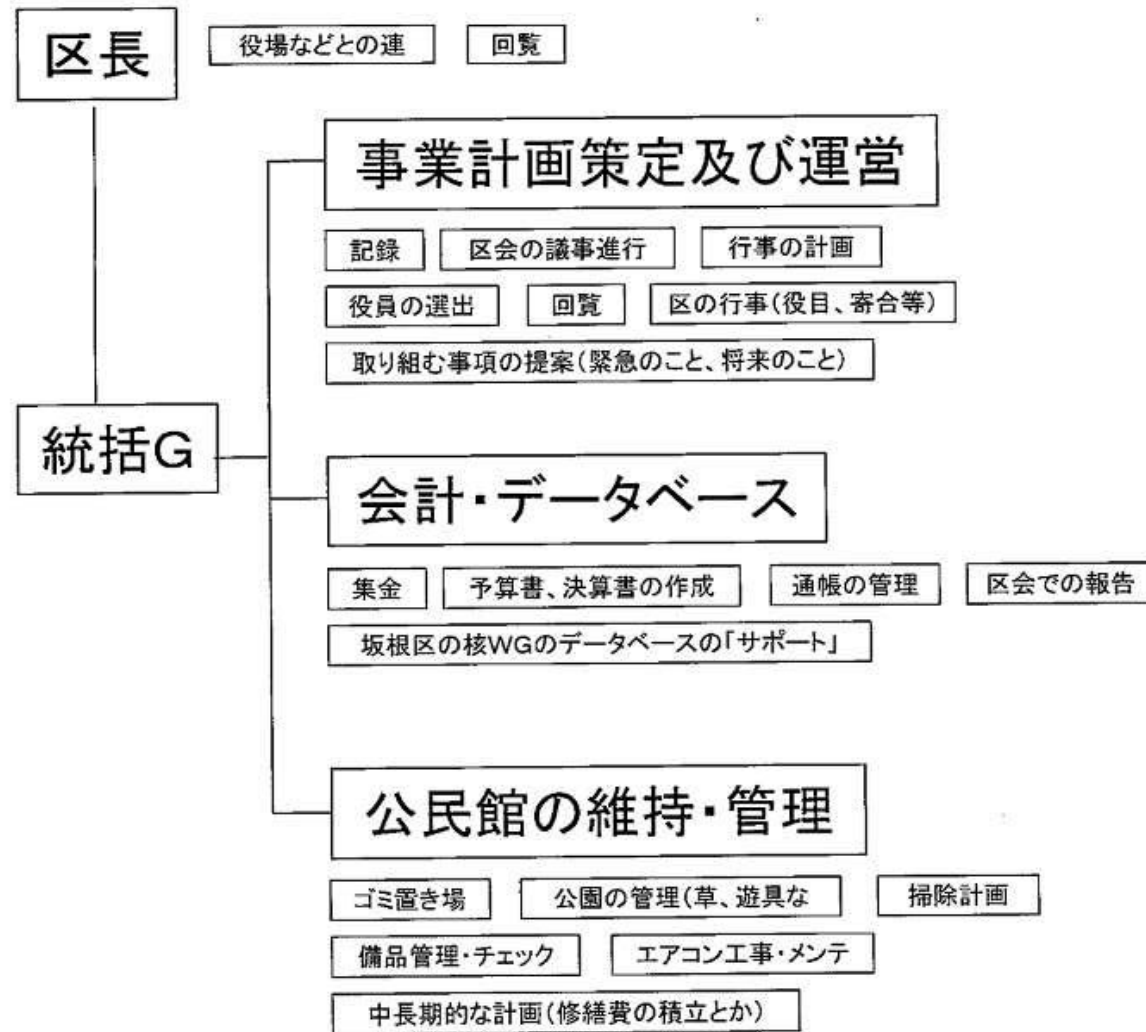
○運営ワーキンググループ

○会計、データ処理グループ

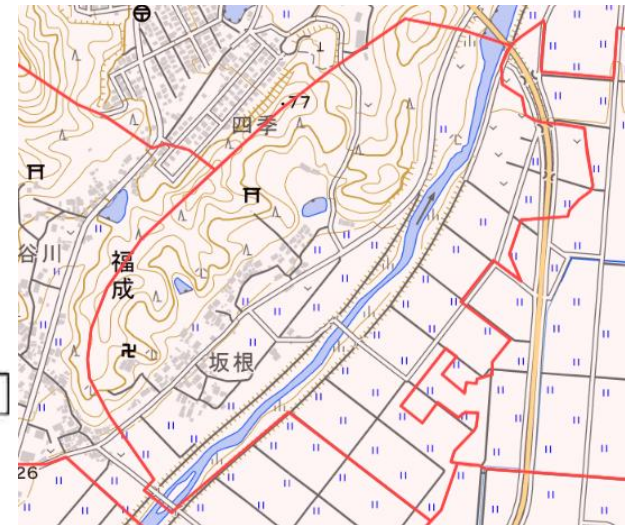
○研修グループ

○△△グループ

鳥取県南部町坂根区の地域運営見直し：全世帯が1役以上を担う



- 天津地域振興協議会役員 (Tianjin Regional Revitalization Council Members)
- 地域福祉委員 (Local Welfare Committee)
- いきいきサロン (Ikkiiki Salon)
- 100歳体操 (100 Years Old Exercise)
- 班長 (Class Leader)
- 防災 (Disaster Prevention)
- 人材育成(次期役員の育成) (Human Resource Development (Development of Next-Generation Officers))
- 運動会 (Sports Meeting)
- あまつ祭り (Amatsu Festival)
- 敬老会 (Respect for the Elderly Meeting)
- 世代間交流 (Intergenerational Exchange)
- とんどさん (Tondosan)
- 宅神敬祭 (Takamiyama Festival)
- 除雪 (Snow Removal)
- 育成会 (Youth Development Association)



VI おわりに

広島市基町アパート6コア自治会長：ものすごく参考になる



【基町アパート】29歳自治会長が「変わる基町」でめざす街の
<https://www.youtube.com/watch?v=JncZgZHw6D4>

自治会(町内会)とは

同じ地域に住む人たちが
相互の親睦を図りながら
さまざまな活動を行うことで
自分たちの地域を
住みよいまちにしていくための
自主的な任意の団体

※広島市HPより

板井三那子さん

2019年から基町高層アパートに住み始め、
2022年より自治会長を務める。現在、広
島市立大学大学院の博士後期課程に在籍
しながらアーティストとして活動。人の
記憶をテーマに、自治会長経験などを活
かした作品制作や地域のアートプロジェ
クトなどに取り組んでいる。

但東町資母地区西野々集落：12世帯 人口28人

住民が笑顔で住み続ける



「不便だと思ったことは一度もありません」
「みんなが力を合わせてできることは、する。できないことは、縮小する。ただ、それだけです」

